

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	社会福祉法人 ガイアの杜		
事業所名	グループホーム あいりん(1ユニットめ)		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	令和4年3月24日	外部評価結果確定日	令和4年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを、人ととのふれあいを大切に」をスローガンにいつでも、どこでも、誰からも必要とされ愛される施設作りに努め、日々地域福祉の向上の勤めています。「笑顔がいっぱい咲きますように」をテーマに掲げて表情豊に暮らす雰囲気作りを心がけ、一人ひとりがそのひとらしく暮らせる寄り添った支援に力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4291600122-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年4月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1点目にお客様との対応については、一人一人の行動や表情の変化を見逃さないようにして、睡眠の量、質、食事の摂取量等日々の気づきの積み重ねによって、ミーティングノートと連絡ノートを活用しており、お客様の事を職員同士が情報として共有しており、情報の量と内容を確認した結果、お客様の事を良く考えて良質な支援に繋がっている点を評価した。2点目として毎日お風呂に入る事を習慣化しており、当グループホームの方針とはいえ、家庭にいるような支援であり、個浴対応の効果で普段余り話さない方も自分の事を話す事もあり、よりお客様と近い形での支援となっている。これはグループホームの原点に近いような取組みであり、良い取組みとして評価する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はリビングの壁に職員が意識できるように掲げてあり、共有し日々実践への取り組みとしてつなげている。	「心と心のつながりを人と人とのふれあいを大切に」という法人理念を共有しており、リビングに掲示している。新人研修時には理念の内容を理解してもらい、グループホームでお客様への思いを共有するようにしている。以前は地域の行事への参加を積極的に行っていたが、コロナ禍においては、これもかなわず、散歩時に地域の方との挨拶程度に留まっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり、以前と比べ交流する機会を断念せざる負えないことが多かったが、その中で散歩時など挨拶を交わしてもらえるようにさせていただいています。	利用者のそれぞれの体調や気分に応じて個別に散歩を行っている。途中で会う地域の方との挨拶はお客様にとってもいい交流になっている。自治会とは表立って、関わりは無いものの災害、火災時における避難協力をお願いしている。以前は地域とのつながりをより密接にする為、龍踊のチームを結成していたが、出番が無く休止状態である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍となり、介護方法など地域に活かせる場、機会なかったが道端で苦しんでいる方、困っている方など日々の介護を通じて分積極的に声掛けができ、お礼の連絡を頂くことがあった。去年、地域への感謝を込めて打ち上げ花火をさせていただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍となり、会議の実施は行っていません。ただサービス向上の為、利用者のご家族に、連絡や訪問の際現状をお話した上で意見を聞いております。	コロナ禍において対面での運営推進会議が開催されていない。お客様、ご家族には法人全体の広報誌「ケアセンターWith」を発行し毎月郵送している。他にもグループホームでは、月に1回のミーティングを開催しており、記録として「ミーティングノート」、申し送り時には、「連絡ノート」を作成しお客様の介護記録としている。この記録は今後、運営推進会議資料に活用していきたいとの事である。	現在、運営推進会議は開催できていないとのことである。コロナ禍である為、対面での開催は難しい状況でもあるかもしれないが、市町村との連携も図ることができ、家族へ配布することで、家族とのコミュニケーションにも繋がるため、1つの方法として、書面での開催等を検討することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者の方とは必要な時に随時連絡を取り合っている。コロナ接種など連絡、連携にて訪問、設営スムーズに対応できた。	避難訓練の実施時期には行政に対し参加の協力をお願いしている。最近では、新型コロナの集団接種をグループホームで行った際、会場の設営、接種要領についてお尋ねし、指導を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、居室には鍵を掛けない、行動制限のないように見守り、安全確保しております。	グループホームでは事故防止委員会が設置されており、過去1年間に事故、ヒヤリハット、転倒、誤薬も含めて172件の報告があった。中には内容を精査する必要がある身体拘束について、当委員会において、該当するか否かを判断した上で、月に1回行っているミーティングで再度検討し、事実を全員で共有し今後の介護の改善に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ内で共通して拘束についての知識が認識できるよう話し合い、指導に取り組んでいます。言葉遣いや態度などスタッフ同士で注意し合うよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要とされるお客様はいないが、研修会などに参加し学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項は丁寧に説明し、趣旨をご理解いただくよう務めています。利用中に料金の変更あれば随時連絡させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族には状況報告を行い、意見、要望があれば取り入れ実践に務めています。	お客様との面会は、コロナ感染対策として、できていない状況である。それでも、特に地元のご家族や、知り合いの方から会いたいという希望が一番多い。対応としてコロナ感染状況に応じて、窓越し面会、玄関先で距離をおいての面会を実施した他、地域で新規感染者が発生した場合は面会を禁止している。今後は発生状況に応じて、PCR検査を条件に面会を対応したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全スタッフが情報を把握できるように連絡ノート設けて活用している。代表者、管理者からは回覧にて運営に対する思いが届き、スタッフの意見などは汲み取るようにしている。	日頃より主任は、職員と立ち話も含めて、コミュニケーションに心掛けている。月に1回のミーティング時にはどんな些細な事も、意見を発するように促している。中にはお客様の行動について気になる点や、介護方法の手順に不手際があったりして仕事が遅れ、退社時刻が遅くなるという意見や、高齢者職員からは体位移動に係る、勤務変更の申し出等を検討する会議となっている。会議の内容については、ミーティングノートに詳しく記載しており、当日参加出来なかった職員には、ミーティングノートを通じて周知しており情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況を考慮し条件の整備に務めている。希望の休みに添えるよう毎月希望を聞く。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で縮小されていたり、中止されたりもあるが、社内で定期的研修などで知識を深め成長できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で意見交換を行いサービスの質の向上に務めている。コロナ禍により機会は減っているがリモートで話し合いができるよう対応している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの見学をして頂き、要望や質問に対応して不安がないように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問・ホーム見学して頂き、コミュニケーション、傾聴を大切に意見、要望などが相談しやすい関係作りにつとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向をしっかり受け止め納得できるサービスを利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの習慣を尊重し、本人様の思いに寄り添った関係を築いて支援している。介護員と一緒にできる作業は同じ立場として不快に思われないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近状報告にて健康状態や普段の生活の様子、ご本人の思いを把握して頂きお客様の生活が豊かなものになるよう協力いただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会制限のため機会が減ってしまったが、テレビ電話やメール、定期的 に手紙にて関係を保つようしています。	関係継続の具体例として、カトリック教会との繋がりは深く、神父様が毎月第一金曜日に来設して、お祈りを頂いており、お客様の心の支えになっている。コロナ前では、隣の保育園園児との交流や老人クラブの方々の慰問で、会話を楽しむ事があったが現在のところ、中止をせざるを得ない状況にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様のひとりひとりの性格、疾患を把握し職員が潤滑剤となりえるよう関わりをもつよう に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談に応じるよう伝えている。お会いした際は、言葉をかけたりし関係性を大切に しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で意向・希望を引き出せるよう意識している。困難な方は言動、表情から思いを読み取るよう務めている。	お客様の思いや意向の把握については生活歴をよく確認して、背景を確認することから始めている。また、普段の関わりの中で気づいたことや共有しておいた方がいいことについては連絡ノートを活用したり、重要なことは個人の記録に転記して月に1回のミーティングで再共有している。自らの気持ちを表出できないお客様については、普段の様子をよく観察することで、全般的には言わないが、いつもと異なる仕草や表情を感じ取ることができるのとことであった。この項目において、特に連絡ノートに記載されている内容が詳細かつボリュームが多めで、お客様にきめ細かいサービスが提供できるような内容も多く認めた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からききだしたり、本人様との会話を通してこれまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を記録し、毎日職員間の連携、報告を常に忘れないようにしている。バイタルチェック、排泄表、食事摂取状況にて異変に気づけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人様の意向を尊重し、心身の状態、日々の生活の様子を把握し、現状に即した計画を作成している。定期的なミーティングの中で計画の見直し、検討、支援方法の改めなどおこなっている。	計画書を作成するにあたり、お客様やご家族からの希望や要望をベースにして、初回作成にあっている。お客様がグループホームでの生活が落ち着いてきたら、毎月1回開催しているミーティングや6ヶ月に1回のモニタリングの場で、お客様の心身の状況を職員皆で確認して、計画書の内容と差異がないか確認するようにしている。特に入退院後は心身の状況が変わりやすいとことと、お客様の情報収集を特に入念に実施しているとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に即したケアの実践状況や経過、日々の様子から気づきを個別カルテに記録し、スタッフが常に確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の代行や通院など、ご家族が対応できない所の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域行事への参加減ってしまっている。移動図書館を活用し、本人様の興味、趣味にあった本など借りています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医に現状の情報を提供し、適切な医療を受けられるように支援している。また健康管理、異常の早期発見ができるよう連携につとめている。ご希望があればご家族同行受診している。	かかりつけ医の選定については、入所後もお客様やご家族の希望を尊重している。基本的にお客様には受診支援をしていて訪問診察ではないが、24時間連絡が取れる体制があるとのことで、緊急時の対応も指示をもらえる仕組みがある。通院については基本的に午前中に看護師が同行して、医療との連携を図っている。受診の際は血圧等の値や排せつ状況が確認できる資料を持参している。受診後はご家族へ状況報告を行って、処方された内服薬の管理は職員で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を設け、情報を把握し、異常があった際は、受診に動いて頂いて。看護医療に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお客様が適切な医療、看護が受けられるよう情報提供書を作成している。入院中は定期定にご家族の代わりに洗濯物を取りに伺うようにしている。退院時にはお客様の現状を把握し、病院側から情報を得て対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、主治医と話し合い、今後の終末期に向けた方針を取り決め、共有し支援している。	重度化や看取りに関して「重度化(看取り)した場合における対応に係る指針」を策定している。また同意書もあるためご家族に説明の後、現時点での意向を確認する仕組みができています。入所しているお客様の心身の状況が著しく低下した場合は、主治医やご家族、職員で話し合いの場を持ち、方向性について合意形成を得ている。現在のところ看取りは行っていないが、経口摂取ができるか否かを1つの指標にして、重度化した場合でも可能な限り対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し熟知徹底するとともに研修の中で実践に早期対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的な防災訓練の実施や近隣住民の方に協力体制を築いている。	昼夜を問わない火災発生を想定した訓練や、グループホームの立地に対応した自然災害の訓練は定期的実施している。これらは実施記録にて確認をすることができた。また法人全体的に地域の中での貢献度が高いため、住民との協力体制を築くことができている。点検の中で計画書の更新や、訓練実施後の各関係機関への周知については見直しの必要な部分があった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちを尊重し、お客様の権利・人権を常に意識して適切な言葉遣いと対応に務めている。	お客様に対する支援の方法や接遇に関しては、法人の幹部会議の場で定期的に理事長から講話があり、主任がこの内容を職員全体に落とし込んでいる。グループホーム内においては、忙しい時間帯に職員の声かけ等が荒くなる傾向にあるため、職員同士注意し合うことができているとのことであった。また、お客様の支援の中で特に入浴や排せつの場面では、周囲の職員も含めて特に意識してプライバシーの配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はお客様の思いを表現できる自己決定できる環境作りを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のひとりひとりの趣味や生活のペースを把握してその人らしい暮らし、居心地のいい生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣類は選択できるよう言葉をかけている。こだわりや好み、これまでの習慣を尊重し、寄り添いながらいっしょに選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の嗜好にあった料理や季節感のある食事が提供できるよう務めている。彩りを工夫し、お客様それぞれにあった食事形態で対応している。できる方はいっしょに手伝ってもらったりしている。	お客様に食事を楽しんでもらえるように、季節の食材を使ったり地産地消を心がけて、「食」を通じて会話のきっかけ作りにも努めている。他にもお客様の誕生日に手作りケーキを作って皆でお祝いしたり、近所の密にならないところで弁当を持って花見をしたり、日々の「食」に変化を加えながら支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様ひとりひとりに合わせた食事形態、水分量の確保に努め、安全に食事が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操をいっしょにし、食後にはお客様の状態に合わせた口腔ケアを行っている。誤嚥しやすい方は飲水前、食前にも口腔スポンジを使用し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導、布パンツでの生活に取り組んでいる。温かいタオルでの清拭、陰洗に務めている。排泄能力が低下して見える方でも現状が維持できるよう支援していきたい。	グループホームではお客様の排せつ機能や排泄パターンを把握した上で、尿取りパットの着用等を検討している。排泄機能は入所の事前情報に加えて、日々の関わりの中から職員間で共有して支援の方針を定めている。また、排せつパターンはチェック表を基本として把握に努めているが、お客様によっては排尿の有無だけではなく、尿量や飲水量までチェックすることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の水分摂取に牛乳を提供したり、ひとりひとりに応じた排泄パターン、水分量に配慮し予防に取り組んでいる。毎日体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が基本で行っている。ひとりひとりの好みの温度に配慮し、ヒートショックなど起きないように室温の安定保持に務めている。季節に応じて花湯やみかん、ゆずを用いて楽しんで頂くよう取り組んでいる。	グループホームの方針として、お客様は体調が悪かったり気分がすぐれない場合を除いて、毎日入浴するようにしている。午前・午後や入浴する順番はその時の状況に合わせて柔軟に対応している。また入浴することで気分転換や意欲向上につながることを期待できるため、入浴剤や柚子、菖蒲、花卉等を入れたりして変化をもたらしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に寄り添った休息の支援を行い、室温の調節、寝具の調整、照明の調節にて安眠できるようしている。日中活動を増やし昼夜逆転しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はお客様の疾患を理解たうえで薬の内容を把握し服薬対応に取り組んでいる。服薬時は服薬ファイルを用いて、名前、個数を確認の為読み上げ、誤薬防止に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、新聞折りなど毎日お客様の力量に応じた役割、楽しみを見出せるよう支援している。地域的な懐かしみのあるおやつ、季節を感じさせるおやつなど提供し当時の思い出、エピソードトークに花を咲かせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様、ご家族様の希望で支援している。コロナ禍により外出は減っているが近隣の散歩、神社の参拝など支援している。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、コロナ禍以前のように外出の頻度は増えていないが、状況をみながら少しずつ近所の神社に花見に行ったり、グループホームの玄関付近で外気浴や日光浴を行うようになってきた。お客様から外出したいという希望は少ないとのことで、職員から声掛けして促していく方針であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に応じて買い物をしてきたり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に寄り添い電話で話したり、年賀状、手紙を書く援助など支援している。家族より電話あればお話できるようにしている。コロナ禍もあり携帯のテレビ電話を用いたりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビングなど季節を感じていただけるよう壁紙、飾り付けを毎月行っている。室温、湿度の調節はこまめに行い、寒さを感じる方はひざ掛けをもちい、配慮に心がけている。	グループホームは建物の2階で運営しているため、陽当たりが良く明るい印象が第一であった。共用空間はお客様が落ち着いた雰囲気でも過ごしてもらえるように、音量や温湿度には特に心がけているとのことであった。また、屋内は毎日掃除しているとのこと清潔な印象を覚えた。最後にお客様に季節感を感じてもらえるように、壁に季節感を感じられるような創作物を掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の落ち着く場所でテレビを見たり本を読んだりしている。また気のあった方同士で談笑したりして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置いたり、ご仏壇を置いたり、使用していた家具を使ったりご自宅に近い雰囲気でも過ごせる工夫をしている。ご家族の写真を飾られているかたもいる。	お客様の居室には危険が及ばない限り、特に持ち込みの制限はなく、筆筒やご仏壇等を確認したり、壁にご家族の写真が多く貼っている居室も確認した。逆にお客様によっては壁に飾っていた飾り物を剥いで、様々な危険が及ぶケースも出てきたため、ご家族に説明と同意の下、安全が確保できる程度に飾り物等を外すこともあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置など考え安全に生活がおくれるように工夫している。身体状況にあわせた環境作りをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	社会福祉法人 ガイアの杜		
事業所名	グループホーム あいりん(2ユニットめ)		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	令和4年3月24日	外部評価結果確定日	令和4年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを人と人とのふれあいを大切に」との理念のもと、お客様、一人ひとりが笑顔で快適な生活ができるよう支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4291600122-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年4月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも見える場所に提示し、常にお客様とのつながりやふれあいを大切にするように心掛け実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で、散歩など行い、あいさつ、会話をおこなったりしている。また、地域との行事への参加したりし交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった場合、支援方法を助言している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を行った際は、状況報告を行い、意見、提案受け、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を行う際は地区の郷長さんにも参加いただき、意見、提案、情報など頂き、協力を受けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から玄関の施錠はせず、身体拘束をしないよう取り組みながら、事故につながらないように心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないよう注意を払い、皮下出血など出来ている場合などは、なぜそうなったかを話し合い防止に努めている。また言葉の虐待がないよう注意している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて権利擁護について学んでいる。現在、必要性はないが、今後、必要性が出れば、活用出来るよう取り組んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定があった場合、説明を行い、疑問、質問がないか尋ね、理解、納得をさせていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族にも参加していただき、意見、要望など伺っている。また、面会時にもお話を伺い、今後運営につなげている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見、提案などを聞いていただき、今後につなげてもらっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、やりがいのある職場になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時や内部研修など行われ、実践につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部の研修などが減っているが、研修があった時などに同業者との交流を行い、意見交換など行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の気持ちに寄り添い、安心出来る関係性が出来るように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談などを行い、不安や要望などを聞いたり信頼関係が出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報を元に本人様、ご家族の必要とされている事を見極め、適切なサービス出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間の中で、出来る事出来ない事を見極めて、出来る事を他のお客様とも楽しく行えるように心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に数回、ご家族様に手紙を送らせて頂き、状況を報告したり、面会時に報告する際に本人様の意思を伝えるなどして絆を大切に、情報の共有を行い、共に支える関係を築くよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カトリックの方に神父様が来館されるなど馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方を近い席にセッティングしたり、他のお客様と関わりが持てるように間に入ったりして、支援するよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係性を大切にし、状況、相談を受けるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で本人様の希望、意見が聞かれた場合は、希望に添える対応が出来るようにミーティングなどで話し合い支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様、ご家族との関わりをしっかりと持ち、その中で馴染みの事、物を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のお客様の状態、状況を把握に努め、変化に素早く気づき、変化にあった対応が出来るよう心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様の变化や課題などミーティングで話し合い、適切な介護が出来るよう心掛けている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人記録を記入し、特に注意や変化があった時などは連絡ノートで情報を共有し、介護計画に活かせるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況にあったサービスが出来るように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様のこれまでの生活歴を把握し、安全に楽しく生活出来るように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、ご家族の要望に応じて、受診を受けるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携をとり、お客様の变化など、報告、相談を行い、適切な受診が受けられるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどの提供を行い、情報交換に努めている。又、ケアマネと連携をしっかりと、早期退院が出来るように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合などは早めに家族と話し合い、今後の方針を決め、共有を行い、支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部で研修を行っているが、きちんと身につけるよう取り組んでいく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を実施している。また自主防火点検を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様を尊重した声かけを心がけ、声かけがきつい時や対応が悪い時などは職員同士で注意しあうようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の希望が伝えやすい対応が出来るように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望に添える支援を心がけてはいるが、こちらの都合に合わせてしまう事が有る為、注意していきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の希望により髪を染めたり、好みに応じた服装が出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に調理手伝いをして頂いたり、好みに応じた食事が出来るよう努めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様、一人ひとりの状態を把握し、それにあつた量、水分量、食事形態をかえて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お客様、一人ひとりに応じた口腔ケアをきちんとするよう対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様、一人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレ誘導を行い、パット使用を減らすように取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態を変えたり、水分や量も個々に変更して対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は職員の都合に合わせてしまっている事もあるが、その方の好みに合わせたお湯の温度にしたりして、楽しく入浴が出来るように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、その時々状況に応じて、休息を取り入れながら、夜間も気持ち良く眠れるようアクティビなどで体を動かす活動を行うよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、副作用をしっかり理解し、変化に気づくようにこころがけている。薬が変更にしたり、量が変わった時は特に変化がないか観察を強化するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握し、出来る事を活かしながら、気分転換になるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の希望があった場合やお客様の希望に添って、外出支援が出来るよう取り組んでいる		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に応じて買い物の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物があった時などは、本人様に声かけし、電話が出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を取り入れた空間づくりを心がけ、不快にならないよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に会う人、合わない人等考え、席のセッティングをしたりして、居心地良く、楽しく会話が出来るよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様の使い慣れた物を飾ったり、好みの物を取り入れたりして居心地良くなるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、わかる事を把握するよう努め、出来る事を活かしながら、安全に生活出来るよう心がけている		